

おおまちだいせき
20. 大町田遺跡 (第5地区)

所在地：敦賀市樋ノ水町
調査原因：北陸新幹線建設事業
調査期間：平成31年4月1日～令和元年6月28日
調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
調査面積：2,100 m²
時代：弥生時代後期～古墳時代前期、古代、
中世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 大町田遺跡は敦賀平野の東部、笙の川が形成した扇状地上にあります。平成20年には敦賀市教育委員会が、平成29年には福井県埋蔵文化財調査センターがそれぞれ発掘調査をおこない、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての建物や河川、土器などがみつかっています。今回の調査は遺跡範囲の北部にあたり、調査前の状況は水田でした。

遺構・遺物 今回の調査では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての河川がみつかりました (NR1・2)。NR1は調査区の中央西側でみつかり、位置関係などから、平成29年調査の際に2-①地区で確認された河川と一連のものと考えられます。NR2は調査区の南西端から中央部にかけて約40mにわたって確認しました。下流側(北側)をNR1に切られており、NR1よりも古い時期の河川であることがわかります。遺物は中～上層で比較的残りの良い土器片がみつかりました。なお、調査区の北側は耕地整理の際にかなり削られてしまったようで、遺構は確認できませんでした。遺物は、比較的包含層の残りの良かった南側を中心に、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器のほか、古代・中世の土器もみつかりました。

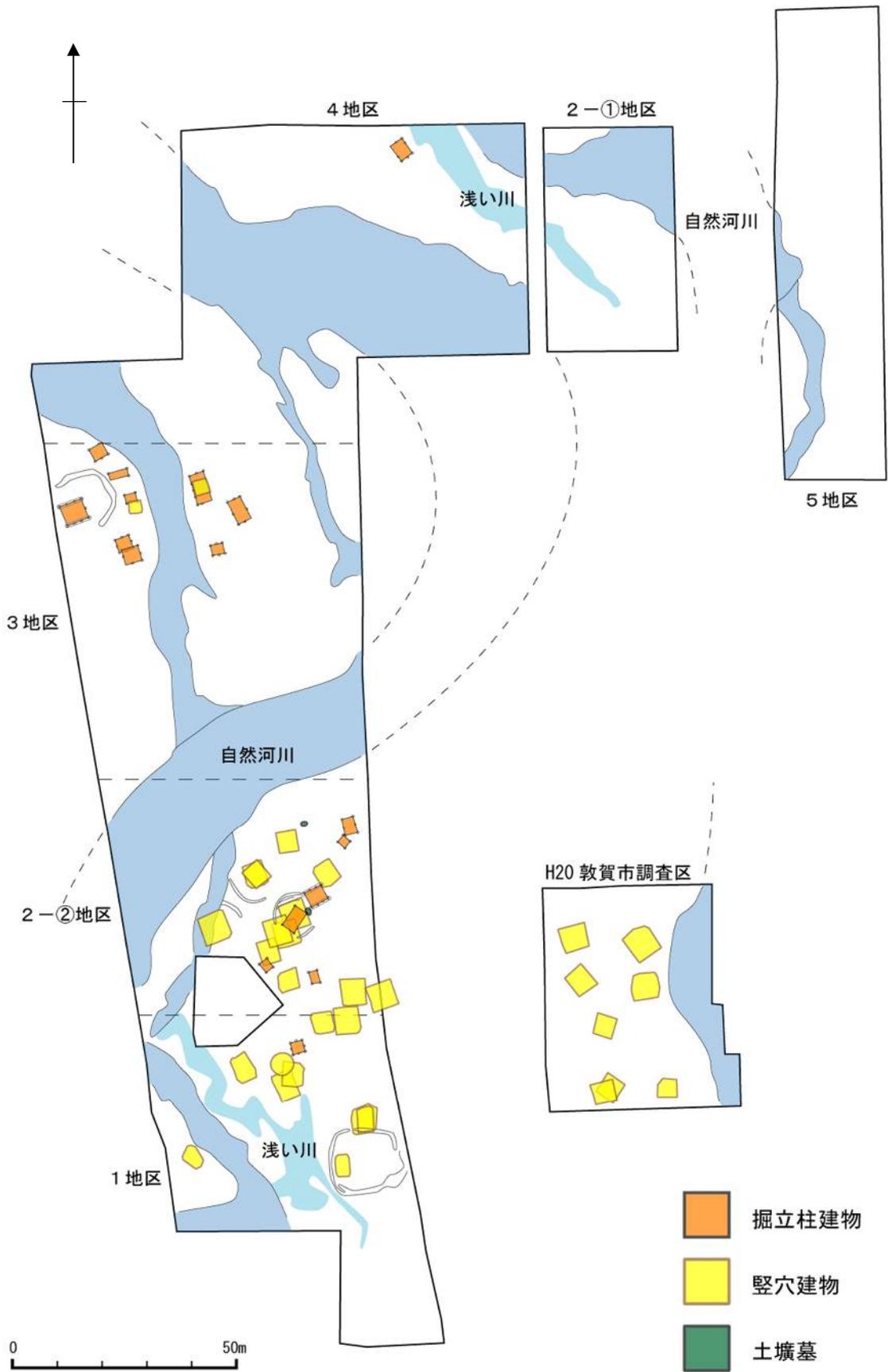
まとめ 今回の調査では、建物などの遺構は確認できませんでしたが、河川から多くの土器が出土しました。おそらく当時の集落は、調査区の上流側(南側)にまで広がっていたのではないかと想像されます。
(安達俊一)



調査区全景 (北西から)



NR2 土器出土状況 (南東から)



大町田遺跡調査区全体図